

教育センター・ニュース

Education Center, Tottori University

NEWSLETTER No. 13

第 13 号 2015 年 3 月 16 日発行

目 次

- ・ 高等教育研究開発部門の活動（教育グランドデザイン／各種研修会／教育改革関連）・・・ 1
- ・ 共通教育開発部門の活動（シラバス記入要領改訂／教養教育改革WG／米子キャンパス調査）・・・ 2
- ・ 外国語部門の活動（TOEIC実施／文部科学省Go Global Japan参加／台湾・銘傳大学英语研修）・・・ 3
- ・ 健康スポーツ部門の活動（キャンプ実習／トレーニングルーム説明会／附属学校園教育支援）・・・ 4
- ・ 関係教員名簿 ・・・ 4

高等教育研究開発部門の活動

●教育グランドデザインの見直し作業

高等教育研究開発部門では、次期中期目標期間における本学の教育の方向性を明示するため、教育グランドデザインについて、現在の社会情勢や学生実態に、より適応するものになるよう、見直し作業を進めています。この作業は、各部局の代表者と全学ワーキンググループを構成し、学長や教育担当理事との協議も交え、平成 26 年度中に一定の方向性を見出すことを目指しています。

●各種研修会への参加

高等教育改革の方向性や他大学の状況を把握し本学の教育課題の改善のため、幾つかの高等教育にかかわる全国規模の研究会や大学訪問等の活動を実施しました。まず、2014 年度大学教育学会課題研究集会（神奈川工科大学）に参加しました。ここでは、「統一課題：日本における大学教育の意義」のもと、基調講演「グローバル化する日本社会における大学教育の意義」吉見俊哉氏（東京大）が行われ、その後、シンポジウム「現代日本の学びと教養教育」のなかで、「社会は競争力を有する人材に資する教養を望んでいるが、学生はどうか」「教養を

学ぶ上で、個々の大学教員の専門性や教養に、現代の学生は追いつけないのではないか」

「個々の教員の教養や専門性を融合する形態が望ましい」等の議論が行われました。そのなかで教養教育の要素として「自分を見つめる：日本語、日本史、日本の古典」「自分の状況を見つめる：政治、経済、法、自然・環境、外国語」「身体化：知識の具体的応用（教室外体験）」「問題意識の展開、専門外領域の知識」「自分が得た教養のとりまとめ：卒業研究」などが提示されました。

その他、早稲田大学を訪れ、学生の視野拡大と多様性認識のための学士課程副専攻プログラムのあり方の論議、都市型地域拠点高度人材教育を行っている筑波大学社会人大学院（東京サテライト）を訪問し、高度職業人教育の事例について協議を行いました。

●大学教育の改革

大学教育改革に関する事業として、高等教育研究開発部門では、「地（知）の拠点整備事業」の教育部門に携わっており、同事業のなかで新規科目開設を進めています。平成 27 年度より新設科目として「鳥取の歴史に学ぶ」等 3 科目が開始される予定です。

授業アンケートに関しては、各学部の平成 25 年度後期実施分の状況について分析を行い、

各部署に送付していますので、授業改善等に役立てていただければ幸いです。

平成 27 年度より、教育の実質化の一環として、各科目の水準や分野等を明示する科目ナンバリング制度が導入されます。これを平成 27 年度の履修案内などに記載することで、学生が科目登録する際に自身の登録する科目の位置づけを明確に理解できるよう準備を進めています。

また米子地区の教育改善の一環として、平成 27 年 2 月に教育担当理事、教育センター長、同各部門長等で医学部を訪問し、同学部長をはじめ各学科長・教務関係者と合同で協議を行いました。本部門からは教育グランドデザインについて説明し、意見交換を行い、今後も、米子地区の教養教育改善について、協力していくことを確認しました。

(部門長：永松利文)

共通教育開発部門の活動

●シラバス記入要領の改訂

平成 26 年度の大学機関別認証評価において本学に課された課題の一つに「授業時間外学習時間の確保」という項目があり、これを遂行する方策として、シラバスの「授業計画」の「予習・復習内容」欄を充実することになりました。「受講者（学生）が何をどのように学べばよいか、具体的に分かるように記入する」という新しい記入方法が定められ、平成 27 年度シラバス記入に際しては、この方針で授業担当の先生方に書いていただいています。シラバスのその他の項目についてもこの機会に見直すことになり、本部門で検討し原案を教育支援委員会に提出しました。最終的に第 9 回教育支援委員会（平成 27 年 1 月 27 日（火）開催）で原案が承認されました。これからの課題は、より充実したシラバスを十分活用するように学生を指導し、学習時間を増してもらうことです。

●教養教育の改革 WG 開始

全学共通科目教養科目の科目区分が平成 27 年度から改訂され、これまでの「基幹・主題・特定」に替わり「基幹・主題・キャリア」とな

ります。このような枠組み変更も含めて、授業内容にまで踏み込んだ教養教育改革のWGが立ち上がり、第 1 回の会議が平成 27 年 1 月 7 日（水）に開かれました。本部門で作られた「コア科目（仮称）」を中心とする原案が示され検討されました。種々の意見が出されましたが、本稿執筆時点では、各学部を持ち帰り、「学生に身に付けさせたい教養としてどのようなものがよいか」を次回までに検討していただくという段階です。おそらく平成 27 年度に審議を重ね、それに基づく教養教育が実施されるのは平成 28 年度以降であると思われます。ここではそのような検討が始まったということをご報告します。

(部門長：田畑博敏)

●米子キャンパス全学共通科目の調査

平成26年11月14日（金）・17日（月）の両日、米子キャンパスの全学共通科目の改善を目的として、同キャンパスにおいて「芸術」、「生活と法律 刑法」、「東アジアの歴史と文化」、「音楽と文化」の4科目の授業参観、及び学生へのヒアリング調査を実施しました。米子キャンパスの全学共通科目の調査は、前期にも1回実施しており、その結果は、「平成26年度前期医学科学生を対象とした全学共通科目調査報告」にまとめています。

具体的な調査方法について、教育センターの教員（桐山准教授、武田准教授）、及び教育支援課の職員（長村副課長）が授業を参観し、併せて受講生に対してその授業に関する簡単なアンケート調査を実施しました。アンケート用紙は授業直後に回収して、2日目の授業参観後に実施したヒアリングの際の参考資料としました。ヒアリングでは、医学科、保健学科、生命科学科の学生計14人から、今回調査対象とした授業科目やその他の全学共通科目等について広く意見を聴取しました。

今回の調査結果は、「平成26年度後期医学部学生を対象とした全学共通科目調査報告」としてまとめました。今後も継続的に米子キャンパスの全学共通科目の調査を行なっていく予定です。

(担当：桐山 聡)

外国語部門の活動

●1・2年生に対する TOEIC 試験の実施

1・2年生全員を対象とした TOEIC 試験がそれぞれ、平成26年12月13日、11月22日に行われました。外国語学習には時間がかかり、英語学習の結果がTOEICの点数に着実に反映されるまでには、ある一定の学習時間が必要と言われています。学生の皆さんには、授業の他にも、自分で楽しめる内容・タイプの英語に接するなど、毎日少しずつでも継続的に学習することが期待されています。

●文部科学省主催 Go Global Japan 参加

平成26年12月19日に関西学院大学で開催されたGo Global Japanにおける基調講演、シンポジウム及びグローバル人材育成推進事業採択の大学によるプレゼンテーションに外国語部門の福安教授、和田教授、小林准教授、滝波助教が参加しました。以下に特徴のある4つの大学の取り組みについて簡単に報告します。

<早稲田大学> 300以上の海外協定校と400もの長期・中期・短期プログラムを設けています。(派遣国の大使館等による)学生向け留学フェアを開催したり、留学を終えた学生が留学アドバイザーを務めています。長期派遣(10か月)の学生にはTOEFL iBT80以上が必要とされていますが、派遣先で取得した単位は早稲田大学の卒業単位となるため、留年することなく、4年間で卒業できるとなっています。留学で最も多いのが、2年の秋からですが、3年の秋からの留学もあります。

<国際基督教大学> 英語プログラムは、速読、精読、スピーキング、リスニングの4科目から成っており、それぞれの科目で、大量のリーディング課題、ライティング課題、そして、プレゼンテーションが課されます。また、英語プログラム以外の科目でも、英語によるリーディングやライティングが課され、英語習得が目的ではなく、英語を使って何かを学ぶことを目的とする、という姿勢が一貫しているようです。授業は少人数で行われ、学生が学習に際して困難に直面した場合、希望すれば、チューターなどの個別指導を受けることができます。

<会津大学> 大学独自の就職支援と入試システムの説明があった。英語力の向上のため、論文を書くためのコースを設置し、卒論を英語で執筆する環境を整えています。

<筑波大学> グローバル人材育成推進事業特色型の説明とSGUタイプAの取組の二つの説明がありました。SGUの取組として海外の大学とのジョイント学位授与プログラムを新設していること、またグローバル・コモンズ機構と称して学内に様々な国からの留学生と触れ合う機会を提供しています。

●台湾・銘傳大学英語研修

2012年に鳥取大学が文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択されて以来、外国語部門では、学生の実用英語能力の向上のために、これまで、グローバル人材育成推進室による多くの短期英語研修プログラムの立案・派遣学生選抜・実施に協力してきました。特に2014年度に飛躍的に拡大したのが、以下の春期英語研修プログラムです。

- *台湾・銘傳大学英語研修 (2012年度開始)
- *春期大山短期集中英語研修 (2013年度開始)
- *マレーシア・マラヤ大学春期英語研修 (2014年度開始)
- *オーストラリア・アデレード大学英語研修 (2014年度開始)
- *アメリカ・アーカンソー大学英語研修 (島根大学主催)

平成27年2月25日-3月20日の第3回台湾・銘傳大学英語研修の参加者は20名(工学部9名、農学部6名、医学部3名、地域学部2名)でした。教育センターからは、藤村センター長、福安教授、和田教授が引率・視察のため参加しました。研修では、銘傳大学の専任教員10名が英語のスキル別の指導を行い、文学や心理学も含む教養や異文化理解力の涵養が図られました。これには、故宮博物院や九扮を訪ねる文化研修も役に立っています。今年度の派遣の大きな特徴は、派遣学生に事前に台湾の歴史、宗教、慣習、食等についてグループ毎に調査させ、また、関西空港を集合場所とするなど、学生の自発的行動を促したところにあります。過去2回の派遣では、派遣学生が帰国後に長期留学に旅立ったり、銘傳大学の学生と交流を続けたり、また中国語に困らなくなった学生まで現れており、派遣のインパクトはかなり大きいことがわかります。

(部門長：福安勝則)

健康スポーツ部門の活動

●キャンプ実習

平成26年9月23日（火）～25日（木）の日程で、大山（鳥取県西伯郡大山町）でキャンプ実習を実施しました。18名が参加し、テント設営、クッキング、大山登山などの課題に取り組みました。

●トレーニングルーム使用方法説明会の開催

平成26年度の第3回・第4回のトレーニングルーム使用方法説明会を、10月15日（水）と10月16日（木）に開催しました。

●附属学校園における教育支援活動

キッズスポーツ アンド スタディサポート (秋季プログラム)

平成26年11月5日から12月10日までの計6回、毎週水曜日に実施しました。活動には附属小に通う2・3年生の児童13名が参加し、用意された時間内に宿題を終わらせた後に積極的に身体を動かしました。今回も夏季プログラムに引き続き、「仲間を助けること」に注目した鬼ごっこ（なかま鬼）を開発・実施しました。通常の鬼ごっこは異なり、「仲間を助けることができる」ことが技能の高さを示すルールになっています。先行研究では、他者を援助したことのある人ほど、過去に援助経験が高いことを示している研究があります。上野准教授は、「自分が捕まるかもしれない状況であって

も、勇気を出して仲間を助けに行く」という行動を具体的に経験することが、教室での児童の援助行動につながるのではないかと考えています。児童らも鬼ごっこにおける援助行動を楽しんでいるようでした〔=写真〕。



●第2体育館の供用開始時期

第2体育館は平成26年9月より耐震工事等のために使用不可能でありましたが、工事が平成27年5月中旬には完了しますので、5月下旬より使用可能になる予定です。

（部門長：福元和行）

《出版案内》

広報アゴラ $\alpha \gamma \rho \acute{\alpha}$ No.39

特集：教養教育今昔 2014年10月刊

教育センター紀要 第11号

2014年12月刊

大学教育研究年報 第20号

特集1：教養教育の回顧と展望

特集2：新しい大学教育に向けて

2015年3月刊

教育センター関係教員（○は部門長、*は兼務教員）※外国語部門、健康スポーツ部門の兼務教員は割愛しています。

教育センター長：藤村 薫

高等教育研究開発部門：○永松利文、田畑博敏*、吉野 公*

共通教育開発部門：○田畑博敏、橋本隆司、後藤和雄、井上順子、桐山 聡、武田元有

外国語部門：○福安勝則、武田修志、T. サージェント、松本雅弘、和田綾子、小林昌博、S. リーン、滝波稚子

健康スポーツ部門：○福元和行、上野耕平



編集・発行 鳥取大学教育センター広報誌編集委員会 電話：0857-31-5795（内線2429）

E-mail：st-soumu@adm.tottori-u.ac.jp